

外国にルーツのある大学生との意見交換会
～今からわたしたちにできることは何か?～
アンケート結果

開催日時：2022年1月23日(日) 午後2時～午後3時30分

参加者：講師含み25名 アンケート回答者：19名

注：5～7の回答は「である調」とし、一部の文章を簡潔にした。

1. 年代をお伺いします。

50代：1名 60代：5名 70代：11名 80歳以上：2名

2. 大学女性協会の会員ですか

はい：18名 いいえ：1名

3. 会員の方は支部名をご記入ください。

茨城：3名 東京：1名 神奈川：4名 静岡：1名 京都：1名

奈良：5名 福岡：1名 長崎：2名 金沢：1名

4. 勉強会の内容はいかがでしたか?

とても興味深かった：14名 やや興味深かった：5名

5. 勉強会の内容で印象に残ったことはどんなことですか?

*日本文化と母国文化の共生が大切だと思った。

*アンヘラさん、グェントウナさんのお話が日本の教育の問題点を突いていて、大変ためになった。

バイリンガルの国際人として日本文化も発信してほしい。

*お二人とも 相当な努力をされたこと 敬意を表したい。国際人として羽ばたかれること期待している。

*私たちは、留学生と外国にルーツを持つ学生さんの区別ができていないことに気付かされた。且つ、留学生と接点が多いように思うが、日本の社会でご家族で生活をされているため当然かもしれないが、お付き合いをする機会が少なく関心も薄いように思う。実際アンヘラさんは、隣近所の人たちと交際は無いと言っていた。②進学指導において十分ではない場合があることがグェンさんのお話しからわかった。

*違う状況で来日された現役の学生さんから、直接お話を聞け、いろいろな課題がまだまだあることがわかり、とても勉強になった。出身国、親の境遇、親の考え方、現在住んでいる地域や学校、学科、今後の進路など、日本人よりも複雑な条件下で将来を考えて進んでいる学生たちが、後輩の指導も行っていることに希望がもてた。サポートできることがあればサポートできるようになりたいと思った。実現はローカルでないと難しいかもしれないが、JAUWとしてできることもあるのではないか、と漠然と感じました。お二人には将来の日本で活躍していただける人材として日

本を拠点にさせていただきたいと思った。今回の企画が実現できたこと、とてもありがたい。日本人も外国にルーツのある人も最終的にはネットワークが重要、ということを感じた。

- * 父母も概ね外国人で、本日発表の2人とも外国で生まれたのに、家族で外国から日本に来て、日本での教育を深めて、小さい時から現在までの感想や意見をきけた。今回は、アンヘラさんは、日本での辛かった経験を通じて問題点を提示しました。
- * 二人の学生さん達のご努力が素晴らしいと感じた。同時に日本の支援体制の貧弱さがうかがい知れた。二人とも日本で生活を続けようと考えていらっしゃるようなので、ご自身の体験を日本の教育の改善に役立たせていただけるとありがたいと思った。
- * 他国に来て、生活が始まると、まずは言語が必要になる。学校以外にも、近所の人や職場の人などが教師役をすることもあり、それはとても大切でありありがたいことである。しかし、決して一方の国の文化を押し付けないこと。日本の社会は全体主義がしっかりしていて、それが外国人を苦しめることもあるが私たちはそれに気付いていない。お互いの文化を尊重しながら伴走者のつもりくらいの付き合いがよさそうだ。役には立つが、押し付けない。
- * 在日の方々も家庭環境などいろいろだと思った。
- * 今日のお二人は家庭は理解があり、本人も積極的な行動力のある方だから日本での生活、勉学を自分のものにできていると思う。問題はそうではない人たちが日本の生活、勉学に適応できるような支援がどうあるべきかということを考えさせられた。
- * 多文化共生は今のグローバルな社会では大切で当たり前なこと、そして日本の教育の盲点をいくつか突かれたようにも思う。
- * 二人のお話から 来日時の年齢によって 自分のアイデンティティを疑うことがあるのだということ。日本は同調圧力が強い。という言葉。日本という国・人に包容力が足りないということ。私たち日本人は個よりも集団を優先してしまう全体主義的なところ、同調圧力を指摘されたこと、確かにそうだと思う。教えるということよりも学ぶ姿勢が大事であることを2人の外国にルーツのある方の話から学んだ。「多様性と郷に入れば郷に従え」考えさせられた。
- * 発表された二人の女性が、進路など自分でよく考え、積極的に学生生活を楽しんでられる様子が良かった。
- * 日本の教育が全体主義。日本に長くいると母国語も忘れそう。日本国籍でないと就職のバリアがある。
- * 家庭での言語使用のことがとても印象に残った。(グエンさんが最初は日本語のみ、今はベトナム語のみというご両親の方針は素晴らしいと思った。アンヘラさんも家庭でスペイン語を使い、また、母国の文化も大切にされていること)
- * 「郷に入っては郷に従え」と「多文化共生」のはざまに葛藤されていること。
- * 「上からの支援ではなく、寄り添う支援が大事」ということ。
- * 地方の学校には、留学生の相談にのってあげる良い教師がいることにほっとしました。しかし、学校生活では「全体主義」的感じがあったというのは、日本の教育界で、以前から続いている問題だと痛感した。

6. 今後の日本語教育に関し、コメントがあればお書きください。

* 日本語は子供の権利としてしっかりと学べるよう、国は本腰を入れて欲しい。

* 「寄り添うことの大切さ」をアンヘラさんが指摘していた。この点、忘れずに銘記したいと思う。

* 全体主義的な考え方に治まらない子が苦しいのではないかと？これは日本の教育そのものの課題ではないでしょうか？

* 日本では、言語を思考や感情、文化と切り離し、手段として捉えていないことを認識し、客観的な言語観を基に、日本語教育にも当たるべきと思う。

* 日本で生活し、教育を受け、就職もしていくために、日本語を理解し駆使できる能力、日本で生活するために必要な暗黙ルールを理解する教育は必要だが、それ以上の日本人化は日本人側からは絶対避けるべきと思う。

* グローバル人材を日本人に同化させた結果は、第二次大戦ですすんでいますし、現在のグローバル環境には全く合っていないので、これからのグローバル環境にあわせた人材育成という観点からの日本語教育（言語教育について、ツールと考えるのか文化を教えるものか、という二項対立についての考え方がまずありますが）は、ご本人が日本語あるいは日本文化を専攻に選ばない限りは、日本語はコミュニケーションツールとして扱う方がよいと思う。

* 取り出し教育の良い点と悪い点について、体験者の見解をもう少し掘り下げられたら良かったとおもうが、この件については尋ねた人の数だけ違った答えがでるだろうと推測されるし、相当きちんとした規模と内容の調査をしないと、まともな結果は得られないでしょうから JAUW 独自に行うことは難しいと思う。

* お話を聞いている限りでは、日本在住の同国人のネットワークがほとんどないようなので、同国人のネットワークが強固な場合はかなり事情が違ふと思う。

* 今回のお二人だけのお話から総論を導き出すのは危険なので、勉強会でよかった。

* 日本の改善の対象は、主として日本人女性なので。一人一人の子供の状況が異なるために、従来の画一的な教育方法では対応できないことが、今日の会でも明らかとなった。外国にルーツをもつ子供だけでなく、日本の子供にとっても画一的な教育はあらためられるべきだと思う。

* 勉強は、いくつになっても出来るというけれど、言語は、それを使って情報を得ていくので早い方がよいと二人の学生さんから感じた。学校教育の中では、語学教育は、しっかり基礎を教えること、学校の図書館には、外国の子どもの本を置き、日本人の子どもも外国語に興味を持つように一緒に勉強できると楽しい。日本人が優位に立つのではなく、外国の子も時には先生役をしてもらう。先生も生徒になる。

* 今日も出てきた「取り出し教育」の功罪を知りたい。日本語が少しも上達しなかったとの本人の感想が新聞に掲載されていた。

* 母国の言語と日本語そして母国の文化と日本文化、それぞれを融合させるような教育機関があって多文化共生を育てていけたらと思う。

* 日本語指導が必要な子供達に十分な支援が得られるようにしてほしい

* 少人数の子供・親に対応する必要性

* 日本語教育が、かつての（台湾などの占領地で行われた）同化政策のように受け止められないように気をつけて頂きたい。

* テレビなど見ていると、日本語の習得には個人差もあるので、将来、どんな職業に就くかで進学する学校も決めると良いと思った。やはり現場の先生の応援が必要だと思う。

7. 「外国にルーツのある子どもの教育」に関して、今後の勉強会で取り上げてほしいテーマや講師として招聘してほしい方があればお書きください。

* 若者の声を聞く機会を再度設けてほしい。

* こういう具体的な現場のはなしは、いつ聞いても感動する。特に若い人の話を期待している。

* 「子どものアイデンティティをいかに育てるか」、日本人の子どもの教育にも当てはまる課題だと思う。その際に、異文化体験との関りが重要であること、そのようなテーマは興味がある。講師は思い浮かびませんが。

* 日本の何が好きなのか、何が問題で嫌いなのかで、いかがでしょうか。

* 実際に該当する子供を多く受け入れている公立校の先生方の現場での工夫、苦心談。

* 外国にルーツを持つ子どもの多い自治体の教育委員会の取り組み。

* 日本語教育の格差是正について、政府や自治体の取り組みを知りたい。

* 今、日本語教育に携わっている講師のお話